

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)ホテルユニゾ京都四条烏丸

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
2 設備騒音対策										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1 屋光率 ●自然 A(全国版準用)										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備 ●自然 B(推奨内容)										
3.2 グレア対策										
1 照明器具のグレア										
2 屋光制御 ●自然 B(推奨内容)										
3 映り込み対策										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能 ●自然 A(全国版準用)										
3 取り入れ外気への配慮										
4 給気計画										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画 ●大切 D(独自基準)										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画 ●とも D(独自基準)										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用)										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性					3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用発電設備の設置	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			通信手段の多様化	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.1	0.29	2.6	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	2.5m/11.67m ² =0.21	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.1	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	屋内にPSを確保	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	東側低層部立面は周辺の町並みに合わせて計画	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 ●自然	A'(全国版準用)	東側低層部に地域産材を使用	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率=15%	3.4	0.30	-	-	3.4
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光パネルの設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=41%	5.0		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.3	0.22	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.0	0.68	-	-	
1 消火剤					2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					1.0	0.33	-	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮					4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮					1.8	0.33	-	-	1.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.33	-	-	
2 振動					3.0	0.33	-	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				全客室には窓際にカーテンを設置	3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる